



ル 3 時  
1789  
4



東海道名取記四

ごゆりふと  
た那ふと

ごゆりふと名取ふとてナ言所

男<sup>オノ</sup>ナケヤウ。今日此及川。海とに成くも事いそ  
つ。是<sup>オノ</sup>名取<sup>ナケ</sup>ふとてつれゆり。つとまふも宿<sup>ヤド</sup>ふん  
ふ。樂河跡<sup>ガクノ</sup>の<sup>ノ</sup>今<sup>イマ</sup>わら<sup>ワラ</sup>坂<sup>サカ</sup>さて<sup>サテ</sup>さづ<sup>サズ</sup>く<sup>ク</sup>す  
言<sup>コト</sup>所<sup>トコロ</sup>也<sup>ナリ</sup>。つり<sup>ツリ</sup>。福<sup>フク</sup>ら<sup>ラ</sup>ふ<sup>フ</sup>。言<sup>コト</sup>に<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>コト</sup>で<sup>デ</sup>も<sup>モ</sup>。う<sup>ウ</sup>。鹿<sup>カ</sup>の<sup>ノ</sup>。読<sup>ヨミ</sup>  
奥<sup>ウラ</sup>も<sup>モ</sup>つ<sup>ツ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>く<sup>ク</sup>あ<sup>ア</sup>す。并<sup>ナラ</sup>も<sup>モ</sup>さ<sup>サ</sup>び<sup>ビ</sup>よ<sup>ヨ</sup>と<sup>ト</sup>び<sup>ビ</sup>の<sup>ノ</sup>り。未<sup>ミ</sup>  
坂<sup>サカ</sup>ま<sup>マ</sup>で<sup>デ</sup>米<sup>コメ</sup>さ<sup>サ</sup>し<sup>シ</sup>。め<sup>メ</sup>と<sup>ト</sup>て<sup>テ</sup>引<sup>ヒキ</sup>さ<sup>サ</sup>す<sup>ス</sup>。ゆ<sup>ユ</sup>。と<sup>ト</sup>も<sup>モ</sup>さ<sup>サ</sup>す<sup>ス</sup>  
こ<sup>コ</sup>の<sup>ノ</sup>宿<sup>ヤド</sup>も<sup>モ</sup>遊<sup>ユウ</sup>女<sup>メ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>の<sup>ノ</sup>。さ<sup>サ</sup>ら<sup>ラ</sup>に<sup>ニ</sup>ま<sup>マ</sup>れ<sup>レ</sup>。あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>さ<sup>サ</sup>す<sup>ス</sup>  
ゆ<sup>ユ</sup>。さ<sup>サ</sup>ら<sup>ラ</sup>に<sup>ニ</sup>。釀<sup>カウ</sup>め<sup>メ</sup>の<sup>ノ</sup>。さ<sup>サ</sup>ら<sup>ラ</sup>に<sup>ニ</sup>や<sup>ヤ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>の<sup>ノ</sup>。あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>の<sup>ノ</sup>。  
さ<sup>サ</sup>ら<sup>ラ</sup>に<sup>ニ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>に<sup>ニ</sup>あ<sup>ア</sup>り<sup>リ</sup>。此<sup>ココ</sup>一<sup>イツ</sup>本<sup>ポン</sup>酒<sup>シウ</sup>



海防の要也。てまゝなりゆかば。是の海。と云ふは  
のす。尾張あぢや。中。淡洲。福築。秋奈をう。師  
乃。僕。あり。大臣。お。人。ま。その。乃。ま。里。り。り。は。大臣  
と。重。井。の。あ。い。い。い。赤。坂。あり。又。音。神。り。あ。う。の。也。  
能。が。地。元。此。松。と。大。あ。の。松。一。中。り。枝。い。や。ち。め。し  
て。地。ま。さ。り。り。わ。り。也。この。あ。い。さ。り。り。わ。れ。い。も。ま。う  
わ。す。人。子。好。ふ。と。や。つ。て。入。竹。づ。つ。と。う。う。海。楽。所  
派。や。て。り。あ。ら。此。異。徳。之。と。う。ふ。人。い。ま。あ。生。れ。つ。る。  
つ。さ。り。う。ま。美。あ。る。人。あり。廣。別。い。ら。ふ。國。乃。代。な  
よ。あり。そ。う。さ。り。し。よ。國。乃。う。う。い。は。淡。水。わ。り。その  
名。氏。實。果。と。い。ふ。じ。う。う。り。つ。て。て。こ。此。水。は  
の。じ。え。い。つ。う。子。ま。美。ま。ん。壺。あ。る。人。と。敬。あ。う。

ゆ。成。り。り。ふ。ら。日。あり。ゆ。つ。に。貪。い。じ。う。り。  
と。う。ゆ。き。く。貪。果。と。う。う。く。と。や。り。き。う。と。異。徳。之  
ま。の。子。ゆ。こ。て。その。あ。と。飲。て。は。は。り。て。つ。く  
右。人。言。世。水。  
試。使。奏。齋。飲。  
と。い。つ。り。伯。夷。叔。齊。と。て。鬼。米。の。胡。國。乃。王。此。子  
あり。じ。が。い。う。う。あ。い。あ。さ。ま。美。え。あり。この。水。を  
ゆ。り。の。み。さ。り。と。し。その。秦。壺。あ。る。人。の。湯。を。う。  
す。ま。と。て。苦。徳。之。を。う。さ。り。じ。が。つ。あ。く。ま。美。日  
して。敬。人。を。う。り。ま。き。と。い。つ。り。赤。坂。の。物。使。乃。松。よ  
さ。り。し。也。壺。人。さ。う。ら。此。つ。く。と。う。ふ。の。地。より。壺。人  
ん。わ。り。の。あ。う。う。その。松。よ。さ。り。り。ま。れ。り。と。て。

三ノ四

三

立派なところへなほありと恒をかりよやまれ  
 る亭をとも男も国づらせしてをありとめんと  
 たり神あり。君うう丹國乃教さつら母かんあつて  
 うあすそのおろしつらねごと。貪泉のまのそ  
 見れえりくあら地ありそれとまといま  
 しまつ。おつしんにあさゆらり。世はさ  
 ぬく衰とさういひ。まはこの戸さうりのあらんや  
 う。未練ありあいに。望み掠めあついひ。又海男  
 あんとよ私とさうする。地り。まつく。あひさう  
 び。と何とやら人。福袋めさう。た敷うか。やうく  
 酒のまて。信のつ。れとまは。人として。遊女一二人と  
 びて。酒のま。け。ま。樂何。休。ま。ら。と。び。て。之。禮。

の小弁とさう。女もま。く山。崎。さ。う。り。と。舞。け。ら  
 り。い。ま。な。の。お。の。祈。め。ら。あ。ひ。ね。と。遊。も。も。明。か  
 き。そ。う。さ。ふ。は。龍。寺。の。侍。し。い。ま。は。後。方。遊。女。を  
 ぶ。さ。う。ひ。の。ま。ご。ま。う。あ。さ。て。と。名。さ。う。り。と。行。め。え  
 男。と。せ。め。て。園。乃。侍。さ。う。つ。ま。り。り。と。さ。う。ら  
 う。樂。何。休。

かり祈すも、ゆらうまらうさ遊を此

くうら成されも、おらりのやと

あけて、杖のまをい、まか、け、ゆ

長沢、山系を右乃、さういわり

たのさ、山中、まは、龍寺、とて、降去、宗乃、寺あり。

い、東照権、沢、い、ま、け、あ、ら、り、し、ま、さ、う、ら、り、び

ちいして。湯もあつひまうらうやちうらうも  
とくあつひまうらうやちうらうも  
者川よりとる所まうらう一里七所

わうらの教ふに  
者川乃波の紋うや者とええ

宿はかれん島にす仲妻とて一様。植乃ひくま  
あり妻乃とて三しそれと男

者川や島乃妻乃向ふりらして妻あつひくまの波  
是乃弼とてくそうあつひまうらうやちうらうも  
梯梁の帷あり。あうらとあつひまうらうやちうらうも  
ゆゑ樂何派  
持つていひまうらうの賤の女あつひまうらうのそうあつひまうらうも

大平川橋わり長  
軍二間 ちのうらうの山茶やう  
あびの師

悪津より池野野すて三里八町

ちうらうは城わり宿乃町とるまうらう河わり松葉川と

以橋わりもまうらう二二間  
矢矯橋長と二百八つわり。は橋乃うらうのまうらう

ゆうらうのまうらう。洪水の所。まうらうあつひまうらうのまうらう  
まうらうのまうらう。比より板乃うらうのまうらう。建

年中は足利の氏。恒念まうらうのりて。後醍醐天皇  
乃命とらうらう。一。新田義貞と大納言とてうらう

まうらうのまうらう。毎舎物かとお念つてまうらうのまうらう  
まうらうのまうらう。まうらうのまうらう。まうらうのまうらう

東矢らふ。西矢らふ。ちのく。此田の中。條。教  
わり。し。矢らふ。宿。名。乃。ひ。下。め。津。福。橋。由。本  
の。成。交。わり。多。く。矢らふ。と。名。つ。つ。の。ま。の。み  
日。平。軍。の。名。東。南。と。り。う。が。人。と。て。こ。ろ。不。足  
く。り。多。い。矢。成。や。り。つ。つ。せ。ら。ま。よ。ら。ま。  
矢。ら。ふ。と。ま。ふ。あり  
う。ら。の。村。 尾。の。淵。 此。の。い。に。在。る  
海。道。一。二。里。あり。小。溪。ウ。ツ。さ。り。也  
今。村。 茶。や。り。 西。田  
海。道。一。里。あり。ハ。橋。乃。舊。跡。あり。乃  
の。み。の。ま。の。東。海。道。と。り。て。ま。じ。の。う。や。葉。平。朝。臣  
わ。ら。ふ。の。ま。の。ま。の。の。時。多。く。て。杜。家。此。ま。の

よ。ま。の。ま。の。伴。勢。地。の。り。母。あり。多。く。ハ。と。と  
い。い。ま。の。川。の。あ。ま。の。ま。の。ま。の。合。て。ひ。く  
流。せ。ん。の。水。う。ま。の。ひ。て。橋。と。名。ま。の。ま。の。ま。  
殊。も。此。ま。の。ま。の。橋。成。ハ。ひ。げ。れ。ん。ハ。橋。と。名。ま。の。ま。  
と。ま。の。ま。の。澤。乃。杜。家。あり。ま。の。ま。今。ハ。在。り。ま。  
杜。家。ハ。新。と。あり。て。後。ろ。て。決。ハ。又。ま。の。ま。の。ま。  
たり。ま。の。ま。の。名。づ。り。橋。杭。と。ま。の。ま。の。ま。  
葉。平。此。在。塔。と。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。  
ハ。橋。乃。決。回。乃。ま。の。ま。の。男。也。ま。の。ま。の。ま。の。ま。  
あ。て。男。中。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。  
不。入。り。と。か。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。  
折。り。と。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。



切みよをまて 倭乃人成ふみろ人より 船何所  
 みる

まろくやまのや

はまのやまのや

まろくやまのや

まろくやまのや

とまのやまのや 男よがれとまのや  
 返りてまのや





大橋山  
笠巻後子

鳴瀬より宮まで二里半十町

中橋橋あり 田島橋長さ二十尺

左のうらまへ。天童の文あり やまのや

樽輪山龍福寺の親善の具場あり。まは依のま

ふ親善の本儀あり。いふも母のまはまると

くまぐく。元三年一に。開帳ありといふ。おふ夕

まにまに。親善堂へくまみ。まはまるとして男

白雨のまはまるといふ。まはまるとしてまはまると

刀部村 左のうらまへ。いふも母のまはまると

山崎のまはまるといふ。まはまるとしてまはまると

右のまはまるといふ。まはまるとしてまはまると

のりて。鳴瀬の橋はあがり。いふも母のまはまると

まはまるといふ。まはまるとしてまはまると

まはまるといふ。まはまるとしてまはまると

馬子うやうや

宮より素くまはまるとして七里半

楽河浜のまはまるといふ。まはまるとしてまはまると

まはまるといふ。まはまるとしてまはまると

まはまるといふ。まはまるとしてまはまると

まはまるといふ。まはまるとしてまはまると

まはまるといふ。まはまるとしてまはまると

まはまるといふ。まはまるとしてまはまると

まはまるといふ。まはまるとしてまはまると

まはまるといふ。まはまるとしてまはまると

は海し木  
宮川、まはまるとして  
あまの御  
城、いふ  
のまはまるとして  
流、いふ  
水のまはまるとして  
風、いふ  
まはまるとして  
まはまるとして  
た、いふ



とつふきしとふみあふ。そのらみいなり文なきこと  
 ましむ。あつるはふすし字とあごまへ。これ等  
 にかぞゆりきりる。その後きいりりとはめく  
 ら。そのまへ子稲田候とをき。まめぐりにはと  
 ゆい。ハノ酒やのどく。ハノ酒を毒の  
 酒とく。えく。中へく。さあか。りり。大池。さり  
 あり。あま子候の氣ふり。と。後よの候ありと  
 ひ。ハノあま子ハの。い。は。さ。い。ま。く。毒の酒と  
 み。あ。ま。つ。り。は。さ。り。の。候。あり。り。あ。ま。子。候。の。氣。ふ。り。と。後。よ。の。候。あり。と。



とてその子尾と切あふりしゆく日されず。劔乃又  
すし一説て折こり。何や一して堅さ海は尾張  
所こそ見あふよ。尾乃中よ劔あり。こまはとり  
てちよのわり。天せうを神日とありしゆらびと  
わりて中とあゆせのふされむ素を立たさる。  
津乃牛既天玉あり。稲田那の相殿とて藤の  
湯和とやす。又町の劔乃大蛇乃尾よありしゆを  
常よハ又のきしらゆひとふあふ。阿乃此  
ゆも此劔とやせり。大よ川の通に國勝吹乃  
明神とありあふ。その後天口とて神の淨屋縁の  
みと依ころ白のゆもさうて國乃ありと  
あふあふとさ。後乃きんとおさうとくさうあふ。

あけて人玉乃世とあり。安仁天皇乃淨時倭姫  
乃多天とて神の淨屋とてさきふあり劔  
ととりまら。伴物玉依命の都とて十段此川と  
るあふありありあふ。今此内文こまあり。まよ  
人玉とて一代系ゆ。天皇乃ゆとて東國乃りの  
とて王命よしゆき。一うが。日本奉のみことと  
大御軍とてゆらうらうらあふ。さすたりら四  
たにゆらうら。びじくまのゆもんとてすて  
尾張の玉とてさうありあふ。稲種の家祿とて  
人乃あふとてさう。そのゆもあふ。又のまはと  
やとてに契りありあふ。つとてさうらうらありあふ。  
うひくとさうらうらありあふ。つとてさうらうらありあふ。後乃此あ



のくまの。その舞をさあひたり。ひあまの  
 不之。醒がせしとらなづきなり。つやもさる。大  
 田島とありて。みあまはさしてとひたり。うた  
 としよりあふ。あまの神こつとひをまら。河内くまは  
 皇の神とありしれま。又りも女人のこのあま  
 野一うはとて。神と作らる。とてより。ふま  
 田の明神とせり。福田宿禰も神とせり。  
 今海なる。うらみ。源らまのまこ  
 せり。大御を。あまの御長。つ。琵琶乃と  
 あり。治承三年の。うら。平の清盛。あま。さ  
 み。とて。ま。あま。わりて。伊豆乃。あま。さ  
 たり。けり。い。これ社。は。ま。りて。愛。と。海。あ。ま。

の神。い。は。ま。標。不。り。て。わ。れ。ま。ひ。津。あ。ま。く  
 せん。わ。く。わ。り。て。は。海。の。り。あ。ま。り。と。あ。ま。り。え  
 され。海。ま。の。妙。善。院。乃。大。院。と。や。せ。り。又。り。あ  
 した。玄。宗。皇。帝。の。百。余。列。と。ら。ま。あ。ま。ひ。日。か。ま  
 たらん。と。ら。り。と。て。あ。ま。と。り。せ。神。の。揚。を。あ  
 と。ありて。世。は。ま。り。多。い。ま。り。で。あ。ま。と。り。ま  
 たり。す。その。後。楊。木。妃。の。馬。唄。が。腹。を。て。り。あ。ま。り  
 ま。い。と。前。古。揚。通。船。と。ま。人。と。つ。り。て。あ。ま。ひ  
 の。魂。の。あ。ま。り。と。あ。ま。り。の。あ。ま。り。ま。り。あ。ま。り  
 あり。と。あ。ま。り。と。あ。ま。り。と。あ。ま。り。と。あ。ま。り。と  
 後。の。つ。れ。と。あ。ま。り。と。あ。ま。り。















ついで大玉八まきみまにわたらくようりまら  
のえどが城とさしどしとて軍兵とうり了  
す。忠辱乃還。忠忠の壘。わうぐ乃劔。漆を乃  
活。神通のろ。智恵乃矢。とりくよつてさる。  
鬼門のおまを。よせある。えど大玉。一まをさて  
城壘とらうら。ちまらる。乃洞とらり。地壘  
石成し。熱地をうと。かまら。城の外は。大壘  
とわら。也。熱地。下は。石壘と  
らり。慳貪の旗とあひ。放逐乃活と。邪  
鬼乃ろに。我懐乃鞆と。也。三毒の劔と。帯し。そ約  
うま。ら。所。ま。も。つ。く。ま。い。ら。ら。け。て。軍兵  
らり。えど。い。う。ら。ら。り。城。は。中。成。う。ま。く。焼。く。い

蘇我持統。ま。あ。ま。の。み。ま。ら。蘇。の。あ。ま。と。み  
ゆ。え。て。長。名。と。ま。れ。り。大。玉。八。ま。き。み。ま。の。に。結。じ  
い。ま。く。三。日。三。夜。を。ぐ。ま。あ。ま。ら。大。玉。す。ま。ら。ら。巨。旦  
が。す。み。ま。の。衣。又。國。と。崩。り。た。り。り。家。あ。く。大。玉。は  
我。ま。ら。ら。の。よ。の。疫。神。と。れ。り。悪。人。と。り。ら。ら  
と。一。蘇。民。が。ま。ら。ら。あ。く。災。あ。ま。ら。ら  
は。と。物。中。あ。り。え。ど。が。尸。と。ら。ま。ら。ら。ま。ら。ら  
わ。ら。ら。く。ま。ら。ら。て。つ。井。ま。は。び。あ。ま。ら。ら。ら。ら。ら  
津。崎。乃。祇。等。と。あ。ら。ら。ま。ら。半。臥。ま。ら。ら。と。あ。ら。ら  
ま。ら。ら。の。時。乃。軍。兵。八。万。宅。千。今。此。涉。其。人。を  
あ。ら。ら。て。三。日。三。夜。の。あ。ま。ら。ら。の。儀。式。也。京。の





桑名より四日市へきて三日八町

亦やうくつとまわれど人々あがりぬ。桑名河原  
 けつひひつと見原の天目川へ井まつと新  
 りんとくまふよ。大なるまふ。ちととくまふ  
 るんとくまふ。つりりのとつりり。じやんとつに  
 る。此河は天目川。大和の玉手川のまふか  
 り。まふけつひひ。大なるまふ。ちととくまふ  
 ね。つりり。つりり。つりり。つりり。つりり。  
 このつりり。つりり。つりり。つりり。つりり。  
 伴物を神まふ。つりり。つりり。つりり。つりり。  
 桑名より湯まわり。つりり。つりり。つりり。つりり。  
 てまふ。つりり。つりり。つりり。つりり。

桑名  
 四日市  
 三日八町



三つつそりのと頼して。其濃乃お不破の宮  
 うねひな多ひく大なるはま子とつこさあり  
 けりまつ井よつこまじらり地多ひく。内位は  
 はうせま。天武天皇の御宇に於ては。此の  
 事也。さて此の天智天皇の御宇に於ては。大  
 友乃はま子此の御宇に於ては。いふうそりて  
 たり。後にも出らる井と。この事多ひく。持統天皇  
 とて。中々として。そりけり。そのうみ。此の事  
 あり。そりけり。その事。多ひく。其の事。多  
 又。天智天皇の御宇に於ては。廣純朝臣と  
 長下。肥前國の國。松浦と。いふ。そりて。いふ  
 事。そりけり。その事。多ひく。その事。多

依その内いりて。こらむ。伊勢を祚。是よ  
 うそひ。うそり。こ。此の事。多ひく。そり  
 乃。そり。入。多ひく。部。よ。久。そり。そ  
 由。廣純。これ。多ひく。乃。廣純。これ。後。  
 その。其。魂。此。多ひく。乃。伊。けり。そり。祚。と  
 いらひ。今。の。松浦。の。明。祚。これ。あり。され。業  
 名。も。天。武。天皇。の。御。宇。に。於。て。は。い。ふ。事。あり  
 けり。事。也。と。い。ふ。事。あり

ち乃方に。成。あり。町。中。と。ら。り。大。は。此。橋。乃  
 うそひ。あり。其。名。物。あり。松。の。名。物。あり。其  
 事。も。其。名。物。あり。其。名。物。あり。其。名。物。あり  
 事。も。其。名。物。あり。其。名。物。あり。其。名。物。あり



石室師より左師まで廿五町

宿乃中一左のうらまは伊敷わりの

町へつぎ在乃方海乃下は茶師わり。樂河海乃

アてつぎく。そまは茶師乃海乃。比本の人

初ぬれども。所乃母乃そのそドめ成志望乃人は

起り乃。此乃法乃わ乃人乃よりつて入けり。此茶

師乃茶乃。こつてまねくもその出神の金揚降り

生乃の菊面石あり。其乃ら乃母乃。持乃の金と

更乃のひ。金乃のうらまは。此乃の秘乃。此乃の

茶師乃乃。地乃の極乃より生乃のりし。此乃の

み越乃大滝茶澄乃。徳國候乃此乃。此乃

茶乃の山乃ありひ乃。此乃の光明乃

こつて。此乃の茶乃。此乃の茶乃。此乃の茶乃

よわりて。此乃の茶乃。此乃の茶乃。此乃の茶乃

十二人此守護神あり。茶澄乃。此乃の茶乃

の住所也とて。此乃の茶乃。此乃の茶乃

みて茶師水乃とつり乃。福乃のり。此乃の

ら乃のり。此乃の茶乃。此乃の茶乃

茶乃のり。此乃の茶乃。此乃の茶乃

とつり又中此乃のり

伊敷乃乃。此乃の茶乃。此乃の茶乃

あ乃のり。此乃の茶乃。此乃の茶乃

こ乃のり。此乃の茶乃。此乃の茶乃

神守りてくまみけり

はんがうもいろきつむやうそくめりて  
をういこくううううううう

あてあやみはくごあふ可なりあふ  
くしてたそ川より流るすか川わり

老神より森山とて二里

これ名物の儀乃火米ありその儀乃あり

あふあふりこふりも也まふ徳うて編う

小儀也中とまふ徳うて海もあふり

倫乃此うらまはぬ由は火米とてわり

て園の生子孫とて出まるとて

て園の生子孫とて出まるとて

がうわの繁か

死らむうううううううの米様

胡類本原 うみづ 中らみ回 あとま

八五子の明神わり 流兼川

泉川 橋わりのううううううう

うう村 村の入りは橋あり

川合村 村の入りは橋あり

新町 入りは森山の城

石のううううう



